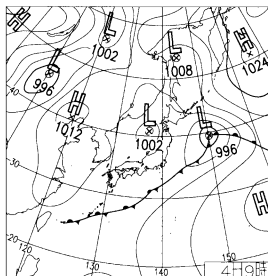


日々の天気図

— No. 41

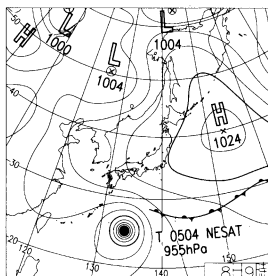
2005年6月

- ・12日～19日、諸島では連日の豪雨。1時間降水量は鹿児島県中ノ島79 mm、那覇市75.5 mm、伊豆諸島三宅島59 mmなど。
- ・23日～24日、前線の影響で沖縄県で大雨、与那国町で97.5 mm/1 h、竹富町波照間238 mm/日の猛烈な雨。
- ・27日～30日、前線の影響で北陸～山陰地方で大雨、新潟県上越市川谷330 mm/hなど。
(気象庁予報部予報課)



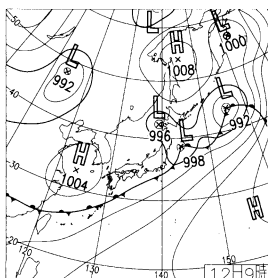
4日(土)本州は所々で雷雨

日本海から日本付近にかけて上空に寒気を持った気圧の谷があり、大気の状態が不安定。午後は東北～中国にかけて本州各地で発雷。山形市や滋賀県彦根市ではひょうも。



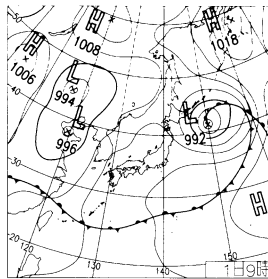
8日(水)全国的に曇り

前日に引き続き日本付近は日本の東の高気圧に覆われるが、北海道の一部で晴れの他はほぼ全国的に曇り。台風第4号が南大東島の東の海上を次第に東に向きを変えながら北北東進。



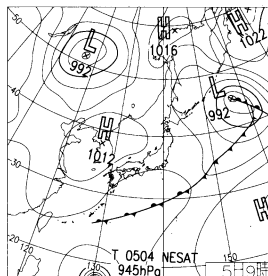
12日(日)西・東日本真夏並の気温

北日本は低気圧の影響で曇りや雨。伊豆諸島や南西諸島は梅雨前線に近く雨や雷雨。その他は曇りや晴れ。西～東日本は真夏の気温。千葉県館山市でシオカラトンボ初見。



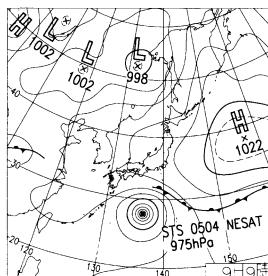
1日(水)台風第4号発生

北海道は低気圧の影響で霧雨後曇り。南西諸島は一部で雷雨。その他は晴れや曇り。本州は気温上昇し大阪府、奈良市などで真夏日。31日夜、カロリン諸島で台風第4号が発生。



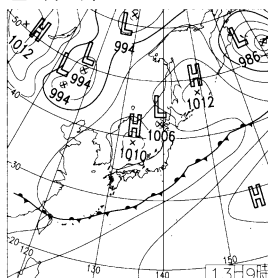
5日(日)中部～関東 雷雨

全国的に概ね晴れや曇り。午後、上空に寒気を持った気圧の谷が通過し、中部～関東にかけての所々で連日の雷雨。旭川、帯広、留萌でヤマツツジが開花。



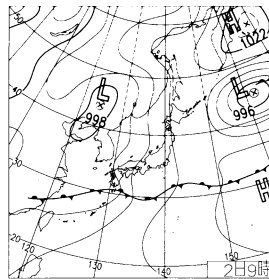
9日(木)台風は北東進続ける

全国的に晴れだが、北日本と東日本の太平洋岸では曇り。台風第4号の名前はネサット、カンボジア語で漁師。最盛期は過ぎたが八丈島の南海上に向かう。



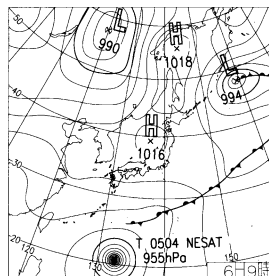
13日(月)西・東日本に少雨情報

日本海の高気圧に覆われる。北海道は曇りや所々雨。東北から西は晴れまたは曇り。九州中心に気温高く熊本で34.6℃。東日本の太平洋側から西日本に「少雨に関する情報」。



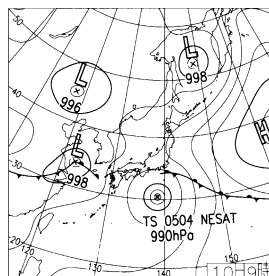
2日(木)関東以西、梅雨のはしり

西・東日本の南海上にのびる前線の影響で、西日本～関東の太平洋沿岸では雨。その他は概ね曇り。1日夜～2日明け方にかけて、東京湾を震源とする地震が連続5回発生。



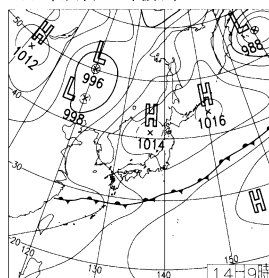
6日(月)西日本 真夏日

日本付近は高気圧に広く覆われ全国的に晴れ。気温も上昇し九州北部、近畿など西日本を中心に真夏日。大分県日田市と佐賀市で31.5℃。福岡市でシオカラトンボ初見。



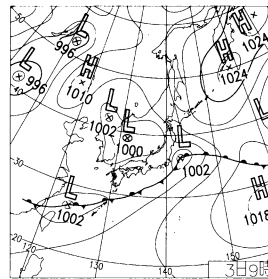
10日(金)関東甲信他 梅雨入り

台風と前線の影響で関東、東北は雨。その他は概ね曇り。関東甲信、九州北部の梅雨入りを発表。関東甲信が九州南部より早く梅雨入りしたのは1964年以来、41年振り。



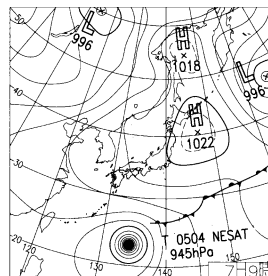
14日(火)東日本で気温低め

梅雨前線は南の海上に停滞。各地概ね晴れたが、夜、東日本は曇り。ただし、関東の沿岸部は北東風が吹き朝から下層雲がかかる。梅雨前線近くの鹿児島県名瀬市で64.5 mm/1 h。



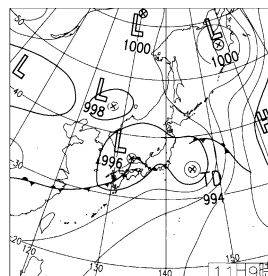
3日(金)熊本県で震度5弱

梅雨前線の影響で南西諸島は雨や雷雨。オホーツク海の高気圧に北から覆われ北日本は所々雨。その他は曇りや晴れ。熊本県上天草市で震度5弱の地震。



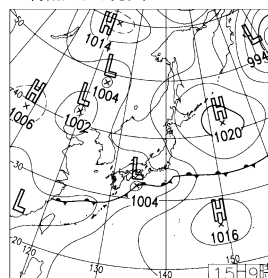
7日(火)強い台風北上

日本付近は日本の東の高気圧に覆われるが、西から中・上層雲がかなりほぼ全国的に曇り。強い台風第4号が南大東島の南東海上を北に進む。



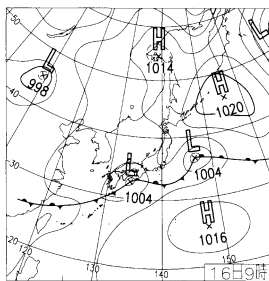
11日(土)西日本と東海梅雨入り

台風第4号から変わった熱帯低気圧及び西日本の低気圧や前線によりほぼ全国的に曇りや雨。前日に続き、九州南部、四国、中国、近畿、東海の梅雨入りを発表。



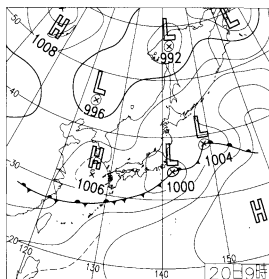
15日(水)東北部 梅雨入り

東海、関東は梅雨前線上の低気圧の影響で終日雨。西日本は晴れ。北海道は晴れ。東北は曇りや雨。沖縄県読谷村で24時までに132 mm/3hの豪雨。東北部の梅雨入りを発表。



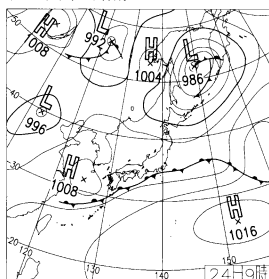
16日(木)北陸に少雨情報

低気圧や梅雨前線の影響で関西諸島や近畿、東海、関東甲信は雨。その他は曇りや晴れ。沖縄県本部町で60 mm/1 hの非常に激しい雨。福井、金沢、富山には「少雨に関する情報」。



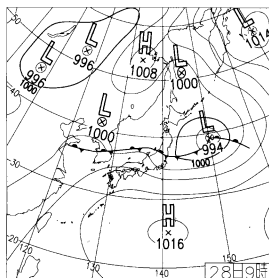
20日(月)新潟県中越で震度5弱

ほぼ全国的に晴れや曇り。南西諸島北部、伊豆諸島は梅雨前線により雨。午後から上空に寒気が入り、大気の状態が不安定。東北南部～東日本の広い範囲で雷雨。



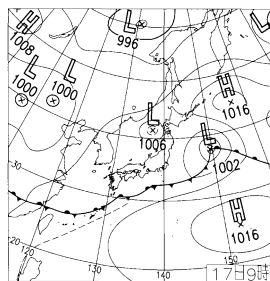
24日(金)関東等も気温上昇

本州付近での梅雨前線の活動は弱まり、沖縄を除いて晴れや曇り。沖縄は雨。竹富町波照間では日雨量238 mm。気温は東京31.0℃、前橋市34.4℃、大分県玖珠町で35.9℃。



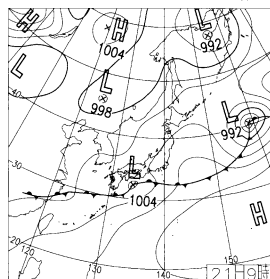
28日(火)「ひまわり6号」運用開始

北陸に停滞する梅雨前線の活動が活発。北陸中心に大雨。新潟県上越市川谷で日雨量330 mm。関東以西気温上昇。6月の記録を更新。運輸多目的衛星「ひまわり6号」正午から運用開始。



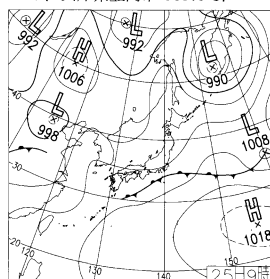
17日(金)那覇の雨量 極値更新

北日本は晴れや曇り。その他は沖縄を除き概ね曇り。沖縄は梅雨前線の影響で連日豪雨。那覇市75.5 mm/1 h。那覇市の1～17日の雨量732 mm。6月の月雨量第1位。113年振り更新。



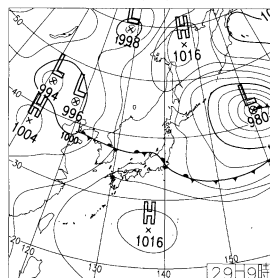
21日(火)全国的に真夏並の気温

梅雨前線の影響で九州南部、四国、伊豆諸島は雨。その他は曇りや晴れ。鹿児島県十島村で46 mm/1 hの激しい雨。気温は上昇し全国的に真夏並み。兵庫県豊岡市で35.5℃。



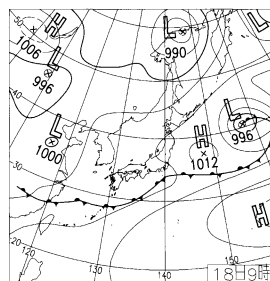
25日(土)各地で真夏日極値更新

北海道は気圧の谷の影響で曇りや雨。南西諸島は雨や曇り。西・東日本は概ね晴れ。各地で真夏日。兵庫県豊岡市では、37.2℃の最高気温。6月として1位の記録。



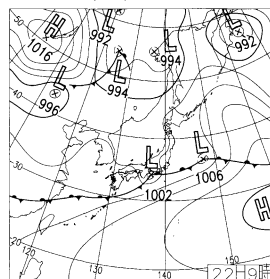
29日(水)北陸、山陰で大雨

梅雨前線が北陸から関東付近に停滞。前線の南側の山陰に湿った空気が流入。日雨量。福井県美浜町で100 mm。兵庫県香美町香住で131.5 mm。福岡市と新潟県上越市でアラゼミ初鳴。



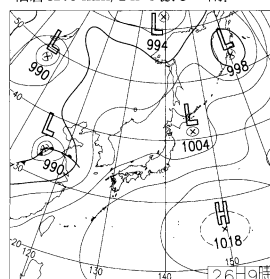
18日(土)三宅島非常に激しい雨

日本の東の高気圧に覆われ。ほぼ全国的に曇りまたは晴れ。梅雨前線は引き続き活動が活発。南西諸島や伊豆諸島で激しい雨。伊豆諸島三宅島で59.0 mm/1 h。



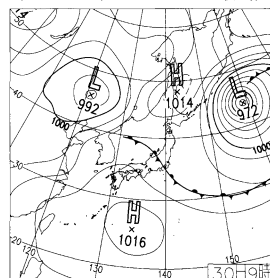
22日(水)梅雨前線や北上

東日本南岸では雨のち曇り。北日本は曇りや晴れだが、午後は上空に寒気が入り雨や雷雨の所も。和歌山県古座川町43 mm/1 h。北海道足寄町柏倉42.5 mm/1 hの激しい雨。



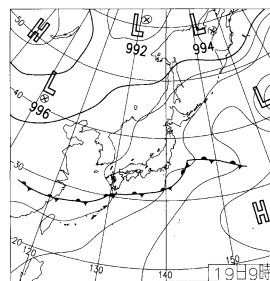
26日(日)南海上の梅雨前線消滅

高気圧に覆われるが、上空の気圧の谷の影響でほぼ全国的に曇り。北日本や西日本では雨の所も。北日本を除いて真夏日の所が多い。東京で平年より31日早くアラゼミの初鳴。



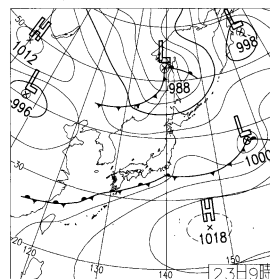
30日(木)梅雨前線、列島を2分

梅雨前線が停滞している北陸から関東の所々で強い雨。北日本ではオホーツク高気圧に。西日本は太平洋高気圧にそれぞれ覆われ概ね晴れや曇り。富山県立山町で日雨量190 mm。



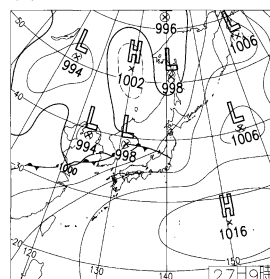
19日(日)南岸に梅雨前線停滞

北日本は晴れや曇り。西・東日本の南岸は曇りや雨。南西諸島では激しい雨。午後に北陸や関東甲信の山沿いで雷雲が発生。鹿児島県十島村で79 mm/1 h。



23日(木)北海道 気温上昇

梅雨前線が本州南岸に停滞。東北から西は曇り太平洋側で雨。沖縄県与那国町で97.5 mm/1 h。北海道は西よりの風で気温上昇。帯広市で33.7℃。小樽市の31.8℃は6月の1位。



27日(月)梅雨入りと梅雨明け

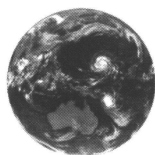
日本海から梅雨前線が北陸にのび、北陸、東北は雨。他は曇りや晴れ。新潟県新発田市で日雨量206 mm。北陸・東北北部で梅雨入り、沖縄・奄美で梅雨明けを発表。

訂正

日々の天気図2005年1月30日
(52巻189ページ)の説明文中に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

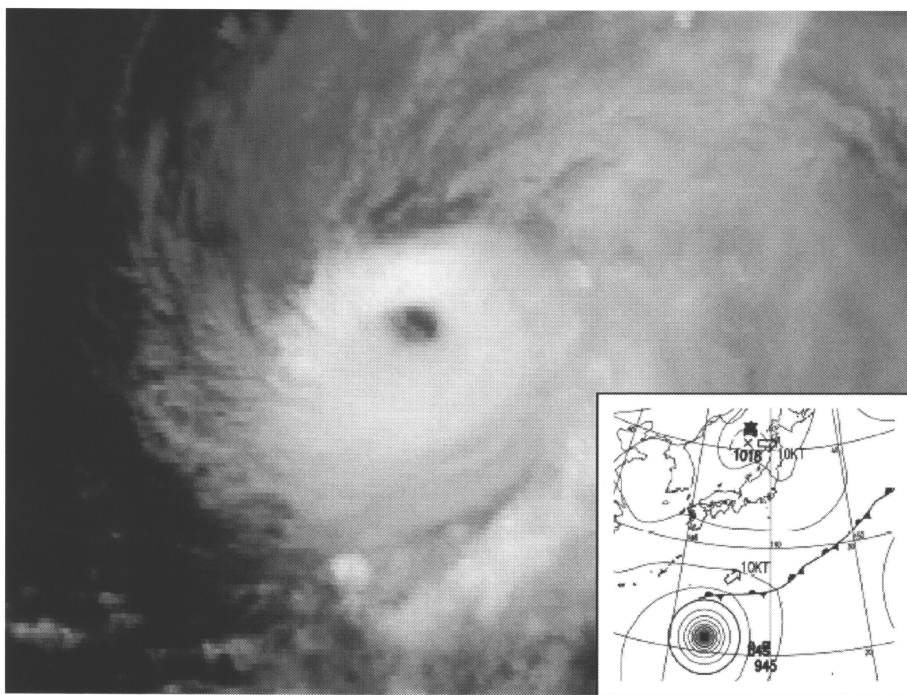
(誤) 岩手県石巻市

(正) 宮城県石巻市



今月の衛星画像—2005年 6 月

中緯度帯をゆっくり北東進した台風第 4 号



2005年 6 月 6 日15時の赤外画像と速報天気図

通常 6 月にカロリン諸島付近で発生する台風は、北西進して大陸の方へ移動することが多い。ところが、6 月 1 日09時に発生した台風第 4 号は、西北西から北北西へと時計回りに進路を変えながらフィリピンの東海上の北緯15度付近まで移動したが、その後は進路を北～北東へ変えて中緯度帯をゆっくり移動した。台風が中緯度帯に入ってもゆっくり北東進したのは、北東にある強い高気圧の影響と考えられる。

台風第 4 号は、高い海面水温の影響を受け、4 日にフィリピンの東海上で中心気圧930 hPa と最も発達したが、その後、中緯度帯に入って再発達した。画像は、再発達した 6 日15時の赤外画像で、台風の中心に眼が見られる。再発達できた要因としては、海面水温の比較的高い場所を移動したことがあげられる。

(気象衛星センター)